

2 地 勢

本県の地勢は、陸地は平坦地に乏しく、いたるところに山岳や丘りょうが起伏し、また海岸線の屈曲が甚だしく、沿岸は各所に半島や岬が突出し、海岸線の変化の多いことは、本県の一大特色で、その延長は約4,203km（平成18.3.31現在）におよび、北海道に次ぎ、全国第2位の長さを誇っている。

東は島原半島が遠く海上に突出し、有明海を隔てて熊本県、福岡県と接し、愛野地峡によって千々石湾（橘湾）と有明海、諫早地峡によって有明海と大村湾とが分かれている。南は野母半島が突出して天草灘にのぞみ、西海上には水路102kmを隔てて五島列島があり、西北海上には143kmを隔てて壱岐、196kmを隔てて対馬があり、朝鮮海峡の彼方に韓国を望んでいる。

北は諫早市、大村市、東彼杵郡、佐世保市および松浦市によって佐賀県と境を接し、国見山、多良岳の両山系は佐賀県との分水嶺となっている。

おもな山岳には、雲仙市の普賢岳、島原市、雲仙市の平成新山、大村市の経ヶ岳、佐世保市の国見山、長崎市の八郎岳、対馬の矢立山がある。

また、各市郡ともに海に面し、幅員が狭いために大きな河川はないが、諫早市の本明川、佐世保市の相浦川、東彼杵郡の川棚川、佐世保市、北松浦郡の佐々川がそのおもなものである。

地質は非常に複雑でその生成も古いものと新しいものとがある。すなわち、西彼杵半島、野母半島は古生層の結晶片岩からなり、土性はおおむね砂質土である。また、西彼杵半島の西方に浮かぶ崎戸から高島に至る諸島は、古第三期層の石炭を含む地層からなっている。

一方、対馬および南松浦郡の地方は、第三期層の砂岩および頁岩に石英斑岩、閃緑岩、玄武岩等の火成岩が噴出しており、峻険な山岳地帯をなしている。さらに、壱岐、北松浦郡、平戸、松浦、佐世保は玄武岩に上部をおおわれた新第三期層からなっており、川棚、大村、諫早、島原半島は、上部を輝石安山岩におおわれた新第三期層からなっている。また、河川の流域には、沖積地帯がよく発達し、土地はおおむね砂質土ないし粘質土である。